

東洋文庫現代中国研究資料室主催・東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点共催

＜ロッシング・バック「土地利用・人口調査資料」（1929～33）の復元・保存・利用＞

＜研究会開催の趣旨＞

戦前中国を代表する農業経済学者であるロッシング・バックは、1930年代に中国全土で大規模な農村・農家調査を実施しました。その成果は大著 *Land Utilization in China*（邦訳『支那経済論』）として1937年に出版され、戦前中国農業を理解するうえでの最重要資料の1つとなっています。

近年、このバック調査に関する膨大なオリジナル資料（農家レベルのマイクロデータを含む）が、南京農業大学で発見されました。本資料の保存・復元とマイクロデータベースの構築のため、2003～2006年にかけて南京農業大学と東京国際大学との間で科研費国際共同研究が実施されてきました。また2007年からは、東洋文庫の財政的援助によって、それらの作業が継続して進められています。

今回の研究会では、＜ロッシング・バック「土地利用・人口調査資料」（1929～33）の復元・保存・利用＞をテーマに、これまで実施されてきた国際共同研究の成果と課題について、以下の要領で報告致します。よろしくご参加下さい。

記

日時：2008年12月5日（金）午後4時～5時30分

場所：東京大学赤門総合研究棟5階センター会議室（549号室）

（本郷キャンパス赤門をに入って右側の建物。西南角）

地図（http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_08_02_j.html）

報告者：宝剣久俊（アジア経済研究所・東洋文庫超域アジア研究部門現代中国研究班）

コメント：田島俊雄（東京大学・東洋文庫超域アジア研究部門現代中国研究班）

主催：東洋文庫現代中国研究資料室(<http://www.tbcas.jp>)

共催：東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点

(<http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/kyoten/index.html>)